

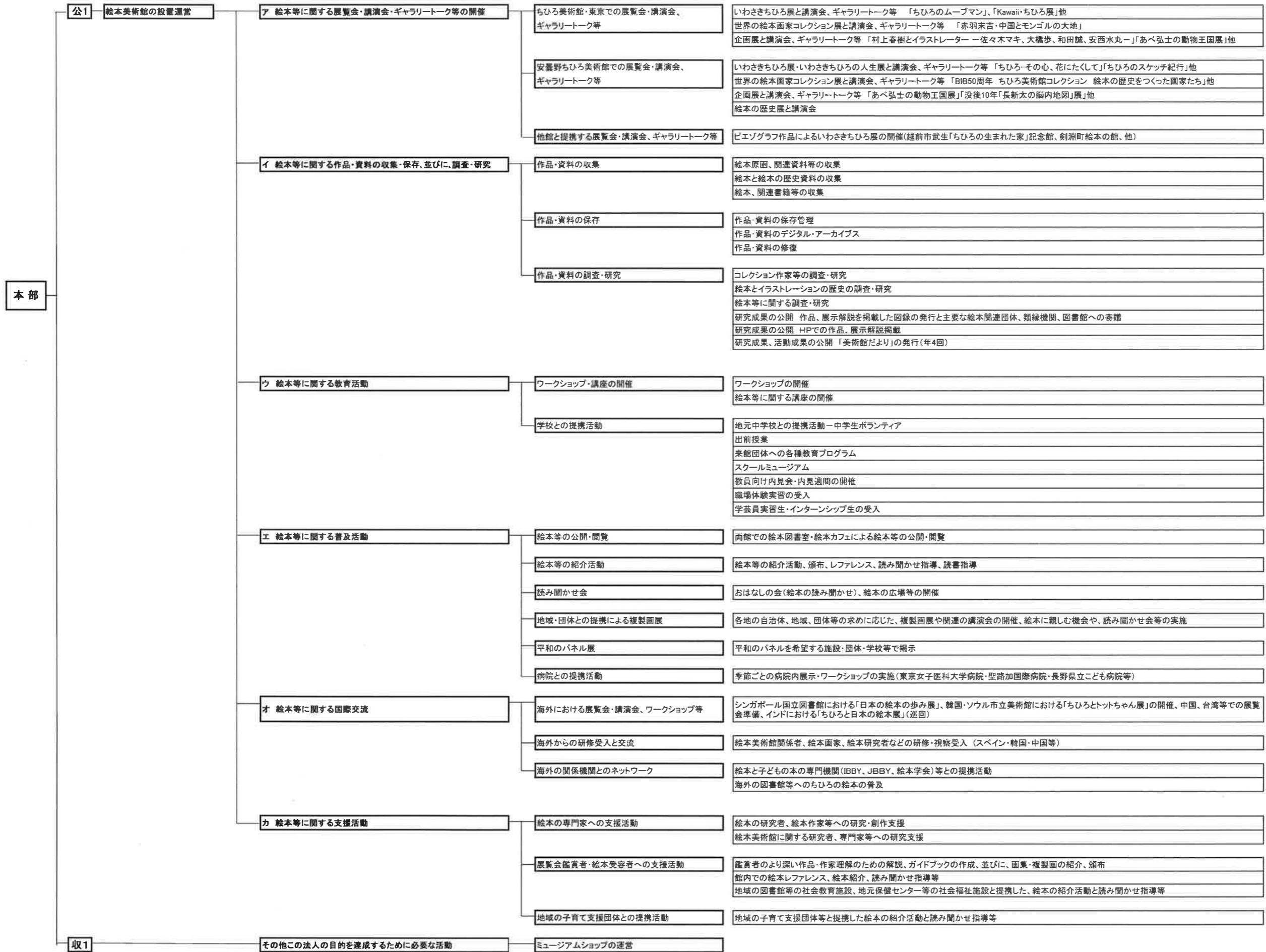
# **2016（平成28）年度 事業報告書**

2016（平成28）年4月1日～2017（平成29）年3月31日

I	<b>2016年度事業報告 事業の体系図</b>	..... 1
II	<b>2016年度事業報告一覧</b>	..... 2

**公益財団法人いわさきちひろ記念事業団**

■2016(平成28)年度事業報告 事業の体系図(案)



事業	個別事業名	実施内容	実績	実施時期(実施日、回数等)	実施場所
<b>公1 絵本美術館の設置運営</b>					
<b>ア 絵本等に関する展覧会・講演会・ギャラリートーク等の開催</b>					
■ちひろ美術館・東京での展覧会・講演会、ギャラリートーク等					
【ちひろ展】	ちひろのムーブマン	本展では子どものムーブマン(動き)そのものを描いたと言われる画家いわさきちひろが、日々成長していく息子を見つめ、スケッチを繰り返すなかで、どんな格好をした子どもも描き出すことできるデッサン力と、動きをとらえる線を身につけていった過程を追った。特に線描に着目し、いきいきとした子どもならではのムーブマンを、ちひろがどのように表現したかを探った。	9,046名	3月1日～5月22日	ちひろ美術館・東京
	—絵のなかのわたし—ちひろの自画像展	画家としての出発点にあたる時期、ちひろは多くの自画像を描いている。懸命に自分の絵や生き方を模索していたこの時期の自画像群をはじめ、自伝的絵本『わたしのえほん』や、ちひろ自身の姿を投影したともいえる少女像や母親像などを展示し、絵のなかに込められたちひろ自身の想いや生き方を探った。	19,977名	5月25日～8月7日	ちひろ美術館・東京
	Kawaii・ちひろ展	近年日本独自の美意識のひとつとしても注目されている「Kawaii」。まるい顔、つぶらな瞳、なにげない手のしぐさ、小さいもの、ユーモラスなもの、なつかしいもの……。ちひろが手がけた作品の多くには、さまざまな「かわいい」の要素が含まれている。「かわいい」を愛し、描き続けたちひろの感性を探った。	12,376名	8月11日～11月6日	ちひろ美術館・東京
	ちひろ・冬のしつらえ	四季折々の日々の暮らしを慈しんだちひろ。秋から冬を描いた絵のなかには、装いや季節の行事、室内的調度など、冬支度が細やかに描かれている。本展では、秋から冬の子どもたちの作品をはじめ、雪深い黒姫山荘で過ごした様子を思わせる作品や、絵本『ゆきのひのたんじょうび』の原画などを展示した。	8,706名	11月9日～2017年1月15日	ちひろ美術館・東京
	ピエゾグラフによる『窓ぎわのトットちゃん』展	一年生で小学校を退学になった著者が、その後通ったトモ工学園での日々を綴った黒柳徹子の自伝『窓ぎわのトットちゃん』は、いわさきちひろの絵で世界各国で愛されている。同年7月の松川村営安曇野ちひろ公園「トットちゃん広場」のオープンにあわせて、ちひろのピエゾグラフでトットちゃんの物語世界を紹介した。	8,706名	11月9日～2017年1月15日	ちひろ美術館・東京
【世界の絵本画家コレクション展】	赤羽末吉・中国とモンゴルの大地	22歳からの15年間を中国東北部(旧満州)で過ごした赤羽末吉。大陸の自然や伝統文化に魅せられた赤羽は、彼の地で画家としての活動を始め、そこで掴んだ壮大なスケール感を後の絵本制作に生かした。赤羽が持ち帰った貴重な写真や資料、スケッチ等で中国での足跡をたどるとともに、『スホの白い馬』『ほしになつたりゅうのきば』など中国やモンゴルの大地を舞台にした絵本を紹介した。	8,706名	11月9日～2017年1月15日	ちひろ美術館・東京
【企画展】	『はしれ、トト！』 <sup>チョ・ウンヨン</sup> 琴音英の絵本づくり展	韓国の絵本画家チョ・ウンヨンがブラティスラヴァ世界絵本原画展でグランプリを獲得し、デビュー作となった絵本『はしれ、トト！』は、競馬場を舞台に幼い少女の目を通して人間観察が魅力の絵本である。絵本の原画とともに、制作プロセスの膨大な資料を展示し、ユニークな絵本が誕生した背景を紹介した。	9,046名	3月1日～5月22日	ちひろ美術館・東京
	村上春樹とイラストレーター 佐々木マキ、大橋歩、和田誠、安西水丸	現代日本を代表する小説家のひとり、村上春樹の書籍には、文章のなかに立ち現れる視覚的なイメージや、文体そのものと響きあう表紙絵やイラストレーションが掲載されている。そこには一貫して村上自身の審美眼があり、テキストとイラストレーションの相乗効果が發揮されている。本展では、村上作品を支える視覚的な要素に焦点をあて、それぞれに絵本も手掛けている佐々木マキ、大橋歩、和田誠、安西水丸との仕事を紹介、村上文学への新たな理解とともに、日本の絵本表現に新たな視座を与えるものとした。	19,977名	5月25日～8月7日	ちひろ美術館・東京
	あべ弘士の動物王国展	旭山動物園で飼育員を25年間勤めた異色の経験を持つ絵本画家あべ弘士。動物と深く関わるなかで、その生命の営みを見続けてきた経験が、彼の絵本には生かされている。動物園で出会った動物たちや、アフリカや北極で目にした大自然のなかに生きる野生動物など、「命のアリティ」を映し出すあべ弘士の世界を、絵本原画や立体作品、珍しい「ねぷた」のための絵や初公開となる挿絵等々で紹介した。	12,376名	8月11日～11月6日	ちひろ美術館・東京
【講演会】	「『はしれ、トト！』琴音英の絵本づくり展」関連企画 チョ・ウンヨン『はしれ、トト！』の絵本づくりを語る	画家のチョ・ウンヨン自身が絵本『はしれ、トト！』をつくった背景を語り、本書のフランスでの出版に関わった翻訳者・広松由希子が、日本語翻訳版ができるまでの舞台裏を紹介した。	36名	3月13日	ちひろ美術館・東京
	「村上春樹とイラストレーター 佐々木マキ、大橋歩、和田誠、安西水丸」展関連企画 「村上春樹とイラストレーター」スライドトーク	村上春樹の読書会を主宰してきたブックカフェ6次元のナカムラクニオによるスライドトークを開催した。村上作品に関するさまざまな角度からの考察を画像とともに紹介し、展示作品の背景について深く知る機会となった。	34名	5月28日	ちひろ美術館・東京
	「村上春樹とイラストレーター 佐々木マキ、大橋歩、和田誠、安西水丸」展関連企画 担当編集者が語る村上春樹とイラストレーター	30年近く村上春樹の担当編集者をつとめ、今も多くの本や文庫に関わる新潮社の寺島哲也が、様々なエピソードも交えて村上作品の装幀やイラストレーションについて語った。	63名	7月3日	ちひろ美術館・東京
	「あべ弘士の動物王国展」関連企画 あべ弘士講演会	絵本画家あべ弘士が、「動物」と「旅」と「絵本作り」を語った。	60名	8月11日	ちひろ美術館・東京

事業	個別事業名	実施内容	実績	実施時期(実施日、回数等)	実施場所
	「赤羽末吉・中国とモンゴルの大地」展関連企画 講演会 「赤羽末吉のみた中国大陆」	戦中から戦後にかけての15年間を旧満州(中国東北部)で暮した赤羽末吉の足跡を、中国の文化とともに、赤羽茂乃(赤羽末吉の三男の妻)が語った。	51名	11月26日	ちひろ美術館・東京
【ギャラリートーク】	松本猛によるギャラリートーク	いわさきちひろの息子である松本猛が、母の思い出や作品にまつわるエピソード、展示の見どころなどを語った。	各回20~30名	3月6日、6月5日、9月4日、12月4日	ちひろ美術館・東京
	あべ弘士ギャラリートーク	あべ弘士本人が展示を紹介するギャラリートークを行った。	約80名	8月10日	
	夏休みこどもギャラリートーク	夏休み中に来館が増える小・中学生にむけて、美術館や展覧会を身近に感じ、楽しみ方のいろいろなヒントを伝える目的のトークを行った。	計31名	8月15日	
	展示担当者、普及担当者によるギャラリートーク	開催中の各展示の見どころ等を、作品を見ながら展示担当者や普及担当者が解説した。		毎月第1、3土曜日	ちひろ美術館・東京
■安曇野ちひろ美術館での展覧会・講演会、ギャラリートーク等					
【ちひろ展】	ちひろ—その心、花にたくして	いつも身边に花を飾り、慈しんだちひろは、作品のなかにも多様な花の姿を描き出している。本展では、花びら等の質感を巧みに描き出し、また、花の描写に子どもの内面を重ねた作品や、花の妖精が登場する絵本など、さまざまな側面から、ちひろが描いた「花」に着目し、花に込められたちひろの想いを紹介した。	22,561名	3月1日~5月10日	安曇野ちひろ美術館
	ちひろのスケッチ紀行	旅を愛したちひろは、心の故郷・信州をはじめとする国内旅行はもちろん、当時はまだめずらしかった旧ソビエト(ロシア)やヨーロッパ各地への海外旅行にも出かけ、旅先でたくさんのスケッチを描いている。本展では、旅先で描いた風景や人物のスケッチ、旅の見聞が生かされた絵本などを展示し、ちひろの多様な旅の足跡をたどるとともに、旅と絵との関わりを探った。	19,807名	5月14日~7月11日	安曇野ちひろ美術館
	窓ぎわのトットちゃん—「みんな、いつしょだよ。」展	一年生で小学校を退学になった著者が、その後通ったトモエ学園での日々を綴った黒柳徹子の自伝『窓ぎわのトットちゃん』は、いわさきちひろの絵で世界各国で愛されている。同年7月の松川村営安曇野ちひろ公園「トットちゃん広場」のオープンにあわせて、ちひろのピエゾグラフでトットちゃんの物語世界を紹介した。	62,834名	7月15日~9月27日	安曇野ちひろ美術館
	愛書総覧 ちひろの本棚	愛読書には、その人の生き方や思想が映し出されるもの。本展では、ちひろのアトリエに残る文芸書や美術書、図鑑など、ちひろの興味や制作の足跡を物語るさまざまな書籍に着目し、その愛蔵書から、ちひろの人生と創作の源泉を探った。	30,906名	10月1日~11月30日	安曇野ちひろ美術館
	「わたしのトットちゃん」ピエゾグラフ展	個性豊かで、好奇心旺盛な少女「トットちゃん」をイメージするようちひろの作品はどれかを館内のアンケートとWEBを通じて広く人々に問い合わせ、寄せられたメッセージとともに選ばれたピエゾグラフ作品を展示し、受け手が創造する新たなトットちゃんといわさきちひろの世界を紹介した。	30,906名	10月1日~11月30日	安曇野ちひろ美術館
	子どもの展示室(トットちゃんの部屋)	トットちゃんの電車の教室を一部に再現し、教室の中で勉強するような感覚でワークショップを行ったり、また、穴のぞくと見られる作品や、子どもの目線に合わせた作品展示など、子どもだからこそ楽しむことができる展示空間を設け、来館した子どもたちと「海のもの・山のもの」のお弁当ワークショップ等を毎日開催した。		通年	安曇野ちひろ美術館
	ちひろの人生	ちひろゆかりの品々や折々の素描・スケッチをはじめ、影響を受けた画家の作品等を展示するとともに、ちひろの人生を紹介するパネルや生前を知る人たちの証言映像等により、ちひろの人生と人間像を伝えた。		通年	安曇野ちひろ美術館
【世界の絵本画家コレクション展】	ちひろ美術館コレクション 花の博覧会	可憐で美しい花は、洋の東西を問わず多くの画家たちを魅了し、ときに移ろう季節を表すものとして、ときに輝く生命の象徴として、絵のなかに描かれてきた。コレクション作品から、国や地域、画家の個性によって多彩な表現がみられる、彩り豊かな花の数々を紹介した。	22,561名	3月1日~5月10日	安曇野ちひろ美術館
	ちひろ美術館コレクション ふしぎな動物たち	ひとくちに動物といっても、画家によって描き方は千差万別であるが、本展では、コレクションのなかから、鼻を楽器にしてブルースを奏でるゾウや、民族衣装を着たキツネなど、独創的で不思議な動物たちを紹介した。	19,807名	5月14日~7月11日	安曇野ちひろ美術館
	BIB50周年 ちひろ美術館コレクション 絵本の歴史をつくった画家たち	世界最大規模を誇る国際コンクール「プラティスラヴァ世界絵本原画展」(略称BIB)は、その芸術性の質の高さでも知られている。BIB創設50周年を記念して、当館コレクションから、同展をはじめ、国際的な絵本賞の受賞画家の作品を紹介した。	62,834名	7月15日~9月27日	安曇野ちひろ美術館
	ちひろ美術館コレクション 無限の夢幻	絵本には、夢や幻想の世界を描いたものが多く見られる。本展では緻密な描写がつくり出す幻想世界や、架空の動物が登場する摩訶不思議な世界など、「夢幻」をテーマに、画家の豊かなイメージーションから生まれた作品を紹介した。	30,906名	10月1日~11月30日	安曇野ちひろ美術館
【企画展】	あべ弘士の動物王国展	旭山動物園で飼育員を25年間勤めた異色の経験を持つ絵本画家あべ弘士。動物と深く関わるなかで、その生命の営みを見続けてきた経験が、彼の絵本には生かされている。動物園で出会った動物たちや、アフリカや北極で目にした大自然のなかに生きる野生動物など、「生命のアリティ」を映し出すあべ弘士の世界を、絵本原画や立体作品、珍しい、「ねぷた」のための絵や発展示となる襖絵等々で紹介した。	19,807名	5月14日~7月11日	安曇野ちひろ美術館

事業	個別事業名	実施内容	実績	実施時期(実施日、回数等)	実施場所
【企画展】	没後10年「長新太の脳内地図」展	独自のユーモアとナンセンスで漫画や絵本に新境地を切り拓いた長新太。本展では、「イマジネーション」と「センスとナンセンス」の2部構成で、10のテーマから、絵本原画、漫画、イラストレーションなどを展示し、迷宮のように広がる長新太のイマジネーションの世界=脳内を案内した。	30,906名	10月1日～11月30日	安曇野ちひろ美術館
	ピエゾグラフによる『窓ぎわのトトちゃん』展	年間を通じて、安曇野ちひろ美術館展示室2と絵本カフェにて、『窓ぎわのトトちゃん』に登場するいわさきちひろの子どもたちをピエゾグラフで紹介した。		通年	安曇野ちひろ美術館
	『窓ぎわのトトちゃん』電車の教室での復元展示	7月23日に開園した松川村営安曇野ちひろ公園のトトちゃん広場に、1925年と1927年製造の電車を移設設置した電車の教室ができた。その教室を使って『窓ぎわのトトちゃん』の世界を再現する展示を行い、戦争の時代に子どもの人格を尊重し、個性を大切にした教育が行われた様子を伝えた。それにあわせて、館内では、子どもの部屋で再現展示を年間を通じて行った。		通年	安曇野ちひろ美術館ほか
【絵本の歴史展】	絵本の歴史	紀元前エジプトの「死者の書」や4～5世紀のフランドルの時禱書、絵巻物から、江戸時代の草双紙、20世紀初頭の絵本にいたるまで、絵本とイラストレーションの歴史に関わる作品・資料を、「手描き本の時代」「版本の時代」「子どもの本の時代(印刷本)」の3つの時代に分けて紹介した。		通年	安曇野ちひろ美術館
【ギャラリートーク】	展示担当者、普及担当者によるギャラリートーク	開催中の展示の見どころや各展示のエピソード等を、作品を見ながら展示担当者や普及担当者が解説した。		毎月第2、4土曜日	安曇野ちひろ美術館
■他館と提携する展覧会・講演会、ギャラリートーク等					
【展覧会】	ピエゾグラフによるいわさきちひろ展	ピエゾグラフによる複製画展を、開催希望自治体、団体、施設と協力をして開催した。展覧会にあわせて、ギャラリートークやおはなし会、水彩技法ワークショップを実施した。	3,927名	①4月21日～6月27日②7月8日～9月5日③9月16日～11月28日④12月9日～2017年3月7日	越前市武生「ちひろの生まれた家」記念館(福井県)
			682名	7月30日～9月30日	剣淵町絵本の館(北海道)
			1,950名	9月3日～10月10日	福知山市佐藤太清記念美術館(京都府)
			2,206名	10月7日～11月7日	ギャラリーエーカワッド(福島県耶麻郡)
	北アルプスの麓 安曇野の美術館・博物館 安曇野アートライン展	安曇野アートライン推進協議会の事業の一環として加盟館10館による展覧会が開催され、いわさきちひろのピエゾグラフ作品1点を展出した。	518名	2017年2月18日～21日	銀座NAGANO(東京)
【他館で開催される展覧会へのコレクション作品の出展】	BIB50周年 ブラティスラヴァ世界絵本原画展—絵本の50年これまでとこれから	赤羽末吉の『スーソの白い馬』2点、長新太の『キャベツくん』2点を展出した。		7月9日～8月31日	うらわ美術館
	童画の国から 物語・子ども・夢	初山滋作品24点を展出した。		7月16日～9月4日	目黒区美術館
	絵本作家・西村繁男の世界展	西村繁男の『にちよういち』4点、『がたごとがたごと』7点を展出した。		7月23日～9月25日	県立神奈川近代文学館
	BIB50周年 ブラティスラヴァ世界絵本原画展—絵本の50年これまでとこれから	赤羽末吉の『スーソの白い馬』2点、長新太の『キャベツくん』2点を展出した。		10月29日～12月11日	岩手県立美術館
	BIB50周年 ブラティスラヴァ世界絵本原画展—絵本の50年これまでとこれから	赤羽末吉の『スーソの白い馬』2点、長新太の『キャベツくん』2点を展出した。		2017年1月4日～2月26日	千葉市美術館
【講演会】	講演会「いわさきちひろの絵と人生～絵本にこめた平和への願い」	講師:竹迫祐子	70名	9月10日	越前市中央図書館(福井県)
	講演会「美術館の楽しみ方—ちひろ美術館を中心に」	講師:竹迫祐子	130名	10月17日	女子美術大学杉並キャンパス(東京都)
	平和を考える講座「ちひろが影響を受けた画家たち -ケーテ・コルヴィッツ、丸木俊など-」	講師:中平洋子	13名	10月1日	西東京市立芝久保公民館(東京都)
	講演「いわさきちひろ」	講師:武石香	29名	11月18日	井草地区区民センター(東京都)
	講演会「ちひろ美術館の魅力」	講師:竹迫祐子	70名	11月15日	専修大学(主催:全国学校図書館協議会／東京都)
【ギャラリートーク等】	いわさきちひろの水彩技法体験ワークショップ	講師:上島史子	30名	4月15日	横浜・朝日カルチャーセンター(神奈川県)
	いわさきちひろの水彩技法体験ワークショップ	講師:上島史子	98名	7月30日	剣淵町絵本の館(北海道)
	いわさきちひろ展ギャラリートーク	講師:山田実穂	55名	9月3日	福知山市佐藤太清記念美術館(京都府)
	いわさきちひろの水彩技法体験ワークショップ	講師:武石香	各会場20名	9月18日	越前市中央図書館・今立図書館(福井県)
	いわさきちひろの水彩技法体験ワークショップ	講師:武石香	15名	11月6日	裏磐梯ギャラリーエーカワッド(福島県)
	いわさきちひろの水彩技法体験ワークショップ	講師:上島史子	30名	12月15日	朝日カルチャーセンター(立川)
	いわさきちひろの水彩技法体験ワークショップ	講師:原島恵	30名	2017年1月10日	朝日カルチャーセンター(千葉)

#### イ 絵本等に関する作品・資料の収集・保存、並びに調査・研究

作品・資料の収集	絵本原画、関連資料等の収集	世界の絵本画家322点(購入70点、寄贈252点)を新規に収蔵した。		通年	両館
	絵本と絵本の歴史資料の収集	時代のエボックとなり、未来に継承すべき優れた芸術性を持つ絵本の資料・絵本の歴史資料の収集を進めた。		通年	両館
	絵本、関連書籍等の収集	優れた芸術性を持ち、魅力的な絵本の収集を進めた。		通年	両館

事業	個別事業名	実施内容	実績	実施時期(実施日、回数等)	実施場所
作品・資料の保存	作品・資料の保存管理	絵本原画を中心とした収蔵作品の適切な保存管理を行なうとともに、画像データベース等での作品管理を行った。		通年	両館
	作品・資料のデジタル・アーカイブス	支持体、画材とも脆弱な水彩画である、いわさきちひろ作品のデジタル・アーカイブスを、右記の点数行なった。	新規アーカイブス計25点	通年	両館
	作品・資料の修復	ケーテ・コルヴィツ「死神」の修復を行なった。	1点	随時	両館
作品・資料の調査・研究	コレクション作家等の調査・研究	両館で開催する展示に備え、また、2017年のちひろ美術館・東京の開館40周年・安曇野ちひろ美術館開館20周年、2018年のちひろ生誕100年記念展覧会等にむけて、コレクション作品の表現・技法、作家の人生、芸術観、時代背景等について、調査・研究を行い、調査資料の収集とドキュメンテーションを進めた。		通年	両館
	絵本とイラストレーションの歴史の調査・研究	両館で開催する展示ならびに、2017年のちひろ美術館・東京の開館40周年・安曇野ちひろ美術館開館20周年、2018年のちひろ生誕100年記念展覧会等にむけて、絵本とイラストレーションの歴史に関する調査・研究を進めた。		通年	両館
	絵本等に関する調査・研究	両館で開催する展示ならびに、2017年のちひろ美術館・東京の開館40周年・安曇野ちひろ美術館開館20周年、2018年のちひろ生誕100年記念展覧会等にむけて、絵本等に関する調査・研究を進めた。		通年	両館
作品・資料の調査・研究	研究成果の公開 作品、展示解説を掲載した図録の発行と主要な絵本関連団体、類縁機関、図書館への寄贈	調査、研究の成果を展覧会等に活かすとともに、作品解説、展示解説等にまとめ、「美術館だより」や、HPを通じて公開した。「美術館だより」等は、絵本関連団体、類縁機関、国際子ども図書館等の主要な図書館へ寄贈した。		通年	両館
	研究成果の公開 HPでの作品、展示解説掲載	調査、研究の成果を展覧会や講演会や研究発表の機会等に活かすとともに、作品解説、展示解説等にまとめ、逐次、HPにアップした。		通年	両館
	研究成果、活動成果の公開 「美術館だより」の発行(年4回)	研究や活動の成果を、展示紹介、活動紹介等にまとめ、各館ごとに年4回発行する「美術館だより」やHPを通じて、公開した。	各館ごとに年4回・計8回の発行	通年	両館

#### ウ 絵本等に関する教育活動

ワークショップ・講座の開催	「『はしれ、トト！』チョ・ウンヨンの絵本づくり展」関連イベント チョ・ウンヨンのワークショップ	絵本『はしれ、トト！』に使われている技法からいくつかを選び、画家本人の指導のもと、技法を体験すべく、ガラス絵の小作品を参加者各自が創作した。	24名	3月13日	ちひろ美術館・東京
	ガーデントーク ちひろの庭の花めぐり	「ちひろの庭」を中心に、作品との関連やいわさきちひろが愛した草花等のエピソードを紹介した。	25名	3月27日	ちひろ美術館・東京
	ちひろの水彩技法ワークショップ	いわさきちひろの水彩技法の特徴のひとつである「にじみ」を使って、実際に作品を制作するワークショップを行なった。	計412名	4月3日、7月29・30日、8月28日、2017年1月2・3日	ちひろ美術館・東京
	親子で楽しむ文化講座 わらべうたあそび	0、1、2歳の乳幼児とその保護者を対象にした、わらべうたあそびの会を開催した。	計111名	4月16日、7月2日、9月17日、11月19日	ちひろ美術館・東京
	ちひろ美術館・東京 たてもの探検ツアー	ちひろ美術館・東京の館の内外をめぐりながら、建物にまつわるエピソードや、そこに込められた思いを紹介した。	計33名	5月18日、12月18日	ちひろ美術館・東京
	ドキュメンタリー映画「いわさきちひろ27歳の旅立ち」上映会	ちひろの映画を通して、ちひろの人生と絵に込められた思いを紹介した。	計83名	6月25日、9月10日、12月15日	ちひろ美術館・東京
	「ちひろのムーブマン」関連講座「クロッキーを描いてみよう！」	ちひろが描いた動きのある線を見た後に、実際に素早く動く対象を描くクロッキーに挑戦した。	18名	4月23日	ちひろ美術館・東京
	「村上春樹とイラストレーター 佐々木マキ、大橋歩、和田誠、安西水丸一」展関連企画 読書会「村上春樹を読もう」	村上春樹の読書会を主宰してきたブックカフェ6次元のナカムラクニオによる読書会。作品について語り合うことで展覧会の内容をより深く味わう機会となった。	25名	6月11日	ちひろ美術館・東京
	親子で楽しむ文化講座 ファーストミュージアムデー	NPO法人あかちゃんからのアートフレンドシップ協会代表の富田めぐみを講師に招き、0、1、2歳の乳幼児とその保護者を対象に、赤ちゃんのための鑑賞会を開催した。	21名	11月13日	ちひろ美術館・東京
	子どもの幸せと平和を考える講座「日野原重明×加賀美幸子 詩の朗読とお話し」	104歳になる医師・日野原重明が長年書き溜めた詩には、生と死、戦争と平和、未来を生きていく者へのメッセージがこめられている。いわさきちひろの絵と重ねて、日野原の詩をアナウンサーの加賀美幸子が朗読した。	42名	6月30日	ちひろ美術館・東京
	子どもの幸せと平和を考える講座	①「井上ひさしの子どもに伝える日本国憲法を読む」朗読：齊藤とも子、講話：樋口陽一 ②「ケストナー『動物会議』から学ぶ戦争と平和」対談：はたこうしろう、那須田淳	計114名	4月16日、10月22日	ちひろ美術館・東京
	子どもの幸せと平和を考える講演「平和への願い」	エッセイストの海老名香葉子が、自らの幼いころの戦争体験、家族の絆、平和への強い思いを語った。	74名	11月27日	ちひろ美術館・東京
	ワークショップ『海のものと山のもの』のお弁当ごっこ	ピエゾグラフによる『窓ぎわのトトちゃん』展の会期にあわせておこなったワークショップ。トモエ学園の小林校長先生の教育理念を理解し、「海のもの」と「山のもの」の両方の食材を用意することで自然にお弁当のバランスを考えられる、ということを体感してもらった。	計51名	12月23日～25、2017年1月4日～9日	ちひろ美術館・東京
	「ちひろ—その心、花にたくして」関連イベント ギャラリートーク＆ワークショップ 花を楽しむ	学芸員による展覧会のギャラリートークと、花を楽しむドライフラワー・アレンジメントの講座を行なった。	18名	4月16日	安曇野ちひろ美術館

事業	個別事業名	実施内容	実績	実施時期(実施日、回数等)	実施場所
ワークショップ・講座の開催	ちひろの水彩技法ワークショップ	ちひろの水彩技法の特徴のひとつである「にじみ」を使ったワークショップを行った。	計1,549名	4月24日、7月30日～8月16日	安曇野ちひろ美術館
	「あべ弘士の動物王国」展関連イベント あべ弘士によるワークショップ「キリンをつくろう！」	あべ弘士による子どものためのワークショップを、松川村図書館との共催で行った。	20名	5月14日	安曇野ちひろ美術館
	「わたしのトトちゃん」ピエゾグラフ展関連イベント 世界のことばで楽しむトトちゃん	世界中で読まれている『窓ぎわのトトちゃん』を紹介し、中国語、ベトナム語、そしてスペイン語にて「トトちゃん朗読会」を行ない、その国々のトトちゃんの受容、またそれぞれの国の手遊びや絵本文化についても語ってもらった。	31名	10月10日	安曇野ちひろ美術館
	「長新太の脳内地図」展関連イベント 長新太だらけのおはなしの会	長新太の絵本の魅力を「読み聞かせ」で味わう、おはなしの会を行った。	計93名	10月1日、11月5日	安曇野ちひろ美術館
	「長新太の脳内地図」展関連イベント パパ'S絵本プロジェクトの絵本ライブ	長新太を中心とした絵本の読み聞かせを音楽にあわせて楽しむ、絵本ライブを行なった。	58人	11月13日	安曇野ちひろ美術館
学校との提携活動	地元中学校との提携活動－中学生ボランティア	松川中学校と連携して中学生ボランティア育成のための研修を行ない、夏休み期間中には、来館者を対象にした、「ちひろの水彩技法ワークショップ」、ガイドツアー、絵本の読み聞かせ等の活動を行なって、右記の数の参加者を迎えた。	182名	6月15日～8月16日	安曇野ちひろ美術館/松川中学校
	出前授業	いわさきちひろやちひろの絵の魅力を伝え、その技法を体験するワークショップを含めた出前授業を企画し、学校等に出向いて実施した。	1校101名 計2校62名	9月30日、10月5日、10月6日 6月4日、10月11日	三谷小学校 松川小学校、白馬南小学校
	来館団体への各種教育プログラム	授業や修学旅行などで来館した学校を対象に、ちひろの水彩技法ワークショップや美術館探検、読み聞かせなどを組み合わせた館内での教育プログラムを行った。修学旅行や特別支援学校等の団体にも、プログラムを工夫しながら対応を行なった。	計17団体575人	4月26日、5月17日、5月19日、5月20日、5月28日、7月15日他	安曇野ちひろ美術館
	スクールミュージアム	長野県下の希望校を対象に、展覧会の作り方を指導、複製画等の貸し出しを行い、生徒の力で展覧会が開催できるよう生徒キュレーターの育成を行った。	1校	9月30日～10月5日	大桑中学校
	教員向け内見会・内見週間の開催	教員を対象とする内見会・内見週間を各会期ごとに開催、博学連携の活動を行った。	2回、計24名 2回、計84名	8月11日～8月21日、11月21日 7月30日～8月7日、11月19日～11月26日	ちひろ美術館・東京 安曇野ちひろ美術館
	職場体験実習の受入	練馬区近辺、松川村近辺の中学校・高等学校からの職場体験実習を右記の通り受入れ、博学連携の活動とした。(東京館：練馬区立石神井中学校2名、練馬区立石神井南中学校3名、練馬区立上石神井中学校2名、都立立川国際高校3名、都立深沢高校2名／安曇野館：松川村立松川中学校2名、大町市立仁科台中学校2名)	計5校、12名 計2校、4名	6月9日～10日、6月30日～7月1日、10月4日～5日、11月16日～18日 9月6日、7日、9月8日、9日	ちひろ美術館・東京 安曇野ちひろ美術館
	学芸員実習、インターンシップ生の受入	学芸員実習生の受け入れ(東京館：八洲学園大学1名／安曇野館：信州大学1名、岐阜大学1名、金沢大学1名、都留文科大学1名、八洲学園大学1名)と、インターンシップ生の受け入れ(東京館：浦和大学1名／安曇野館：武蔵野美術大学1名)を行った。	計2校、2名 計6校、6名	学芸員実習 9月24日～10月1日、12月12日～12月16日 インターンシップ 8月20日～28日のうち20時間 学芸員実習 9月24日～10月1日、12月12日～12月16日 インターンシップ 7月26日～8月18日	ちひろ美術館・東京 安曇野ちひろ美術館

## 工 絵本等に関する普及活動

絵本等の公開・閲覧	両館での絵本図書室・絵本カフェによる絵本の公開・閲覧	長きに渡って愛され続ける絵本とともに、新刊等幅広い国内外の絵本を、絵本の専門美術館としての視点で選書し、芸術性に優れた魅力的な絵本を配架、また、企画展に関連した絵本のラインナップも加えて、両館の絵本図書室・絵本カフェ等での閲覧に供した。	通年	両館
絵本等の紹介活動	コレクション作家・企画展作家・その他の世界の絵本作家の絵本等の紹介、頒布、レファレンス、読み聞かせ指導、読み書き指導	当館の視点で選書した国内外の絵本を、絵本図書室、HP等で紹介、普及、頒布するほか、どのような絵本を選べばよいのか、どのように読みればよいのか等々、来館者をはじめ、幅広い求めに応じて、適宜、選書や読み聞かせの方法等についてアドバイスを行い、日々の暮らしの中で身近に絵本が楽しむことができるよう支援した。	通年	両館
読み聞かせ会	おはなしの会(絵本の読み聞かせ)、絵本の広場等の開催	絵本の理解を深め、展示鑑賞をより充実したものとするため、両館それぞれで、定期的に絵本の読み聞かせ会を右記の通り、開催した。あわせて、同様に、学校・保育園等からの団体鑑賞に際して、要望に応じて、右記の通り、読み聞かせ等を行った。	22回、延べ374名 31回(内、団体11件)延べ776名	ちひろ美術館・東京 安曇野ちひろ美術館

事業	個別事業名	実施内容	実績	実施時期(実施日、回数等)	実施場所
平和のパネル展	平和のパネルを希望する施設・団体・学校等での掲示	ちひろの平和への願いを伝えるために、平和の絵本2冊のパネルや複製画を、希望する施設・団体・学校に、右記の通り、貸し出した。		7月9日～8月31日	浦安市富岡公民館、浦安市当代島公民館
				7月19日～25日	鎌倉市役所
				8月3日～17日	石川県庁ロビー(反核おりづる市民のつどい)
病院との提携活動	季節ごとの病院院内展示	来館が難しい病院患者やその家族を対象に、病院内での複製画展を行った。		随時	東京女子医科大学病院、聖路加国際病院、長野県立こども病院、埼玉医科大学総合周産期母子医療センター、国立成育医療研究センター、同センター内子どもホスピス「もみじの家」

#### 才 絵本等に関する国際交流

海外における展覧会・講演会、ワークショップ等	インドにおける「ちひろと日本の絵本展」(巡回)とワークショップ	インドの国際交流基金と連携し、「ちひろと日本の絵本展」をインド国内で巡回(Jawahar Kala Kendra)した。また、事前に国際交流基金の職員にレクチャーを行い、開催会場では同職員らがちひろの水彩技法のワークショップを行った。		4月26日～5月14日のJawahar Kala Kendra	インド・ジャイプール
	シンガポールのAFCCにおける「日本の絵本のあゆみ展」および「フォーカス国：日本」の実施	シンガポールで開催されたAFCC (Asian Festival of Children's Content)の「フォーカス国：日本」(Country of Focus: Japan)に併せ、シンガポール国立図書館内にて日本の絵本のあゆみを紹介する展示を開催した。また、AFCC「フォーカス国：日本」に、国内準備委員として国際こども図書館、日本児童図書出版協会、学校図書館協議会等と連携し、参加講師等と共同して取り組んだ。		AFCC: 5月25日～29日 展覧会: 5月25日～7月10日	シンガポール
	台湾における、コレクション画家赤羽未吉の複製画の貸出および、台湾における展示の打ち合せ	台湾で開催された「国際アンデルセン賞画家賞受賞画家展」のために、当館コレクションである赤羽未吉のピエゾグラフを貸出した。まだ、取り組みの少ないアジアでの大規模な絵本作品展の一つとして、同展を視察し、今後の台湾でのいわさきちひろピエゾグラフ展開催について協議を行った。		9月15日～18日	台湾・台北
	中国上海でのいわさきちひろの紹介イベント開催、および中国でのちひろ展開催に向けての準備	上海児童書フェア会場にて、ちひろ美術館・東京の開館40周年・安曇野ちひろ美術館開館20周年、および2018年のちひろ生誕100年に向けて、いわさきちひろの作品と人生を紹介するイベントを開催した。また、あわせて中国の子どもの本の関係者と、2018年のちひろ生誕100年展開催にむけての打ち合せを行った。		11月19日	中国・上海
	韓国・ソウル市立図書館における「ちひろ展」の開催準備	2017年5月に開催予定となった「ちひろ展」に向けて、準備を進めた。		通年	韓国・ソウル
海外からの研修受入と交流	スペイン ホアン・ポルテル氏視察来館受け入れと交流	スペインの児童文学研究者Joan Portell Rifà夫妻を来館視察に迎え、当館所蔵のスペイン語絵本についての意見交換を行った。		11月3日4日	両館
	韓国の絵本画家、編集者等の研修受け入れ	韓国の若手絵本画家や編集者、絵本関係者、イラストレーション・ギャラリーの運営企画者などを受け入れ、当館の展示やコレクション、保存技術、理念等について研修し、交流した。また、松川村の児童や地域の人たちとの交流もサポートした。		10月25日～27日	安曇野
	台湾の若手絵本画家、出版社、編集者の視察受入	台湾の若手絵本画家と出版社の編集者らの視察を受け入れ、交流した。		11月3日	安曇野
	上海ブックフェア海外担当者の視察受入と打ち合せ	上海児童書フェアの海外部門担当者の視察を受け入れ、同フェアと国内の絵本関係機関、絵本作家との交流をサポートするとともに、2018年のちひろ生誕100年展開催にむけての打ち合せを行った。		3月23日	安曇野
	タイの出版社および翻訳者の視察受入と交流	タイの出版社と、タイ語版『窓ぎわのトトちゃん』の翻訳者らの研修を受入れと交流を行った。		3月25日	安曇野
海外の関係機関とのネットワーク	絵本と子どもの本の専門機関(IBBY、JBYY、絵本学会)等との提携活動	絵本と子どもの本の国際的な専門機関であるIBBY (International Board on Books for Young People)、並びに、国内の専門機関であるJBYY、絵本学会、全国絵本ミュージアムネットワーク等との交流を深め、適時、提携活動を行った。全国絵本ミュージアムネットワークを紹介する英文チラシの作成と頒布に協力した。		随時	両館
	海外の図書館等へのちひろの絵本の普及	海外の国際交流基金の図書館等に、ちひろの絵本を寄贈し、普及に努めた。		随時	両館

#### 才 絵本等に関する支援活動

絵本の専門家への支援活動	絵本の研究者、絵本作家等への研究・創作支援	絵本の研究を目指す学生、専門家、また、絵本作家等の絵本の専門家を対象に、求めに応じて、それぞれの研究テーマを吟味し、当財団コレクションの絵本原画、絵本、資料を活かした研究や活動を支援した。		随時	両館
	絵本美術館に関する研究者、専門家等への研究支援	絵本美術館について学ぶ学生や専門家を対象に、求めに応じて、それぞれの研究テーマを吟味した上で、当財団の絵本専門美術館の設置・運営に関する経験と実績、資料を活かした研究や活動を支援した。		随時	両館
展覧会鑑賞者・絵本受容者への支援活動	鑑賞者のより深い作品・作家理解のための解説、ガイドブックの作成、並びに画集・複製画の紹介、頒布	鑑賞者が作品や作家に興味を持ち、理解を深めるための手助けとして、解説やガイドブック、ワークシート、セルフガイド等を作成、館内配布やWEB配信をするとともに、画集や複製画の紹介、頒布等を行い、それらを通して作品鑑賞を手助けする活動を行った。		随時	両館
	館内での絵本レファレンス、絵本紹介、読み聞かせ指導等	絵本の問い合わせ等に随时対応する他、来館者を対象に絵本の紹介や、読み聞かせの方法等について指導を行った。		随時	両館

事業	個別事業名	実施内容	実績	実施時期(実施日、回数等)	実施場所
	地域の図書館等の社会教育施設、地元保健センター等の社会福祉施設と提携した絵本の紹介活動と読み聞かせ指導等	地域の保育園、幼稚園、学校、図書館等の社会教育施設、地元保健センター等の社会福祉施設等と協力し、求めに応じて、絵本の選び方や読み聞かせの方法等についてアドバイスを行い、地域住民が生活の中で日常的に絵本が楽しめるよう支援した。		随時	両館
地域の子育て支援団体との提携活動	地域の子育て支援団体等と提携した絵本の紹介活動と読み聞かせ指導等	松川村保健センターと協力し、絵本の出会い事業として、同村の新生児とそのお母さんを対象にファーストブックを贈呈し、絵本の選び方や読み聞かせ等についてアドバイスを行った。	計56名	年6回	安曇野ちひろ美術館/松川村保健センター

その他					
生誕100年記念事業	生誕100年記念事業の取り組み	2018年いわさきちひろの生誕100年に向け、他館との連携で行う大規模ないわさきちひろ生誕100年記念展開催のための研究、調査、準備を進めるとともに、当館でいわさきちひろとコラボレーション展を開催するクリエーターを定め、協議を進めながら、新しいちひろの魅力を広げていく展示や関連の取り組みのための準備を進めた。		通年	両館
被災地支援	災害支援の取り組み	東日本大震災の被災証明を提示した来館者は全員無料とした。 館内の来館者に対し、東北、熊本、鳥取等の被災地支援の義援金を呼び掛けた。	安曇野館 42名  総額80,225円  総額:58,634円（東日本大震災義援金6,148円、熊本地震災害義援金47,571円、鳥取県中部地震災害義援金4,915円）	通年  通年  通年	両館  ちひろ美術館・東京  安曇野ちひろ美術館
無料入館日	無料入館日の取り組み	美術館が人々にとって、魅力的で楽しい場所となるよう、受け入れを工夫し、美術館が社会に果たす役割を高め、より広範の人々にアピールする好機として、右記の通り、両館で無料入館日を設けた。さらに、安曇野館では、近隣市町村の人々により当館に親しんでもらうため、松本市から白馬村までの近隣市町村ごとと、長野県民対象とした無料入館日を、右記の通りそれぞれに設けた。	974名  計776名  池田町・生坂村:4月10日 安曇野市:5月8日 大町市:5月22日 松本市:6月12日 白馬村・小谷村:6月26日 松川村:2017年3月5日 長野県:2017年3月26日	12月11日  池田町・生坂村:4月10日 安曇野市:5月8日 大町市:5月22日 松本市:6月12日 白馬村・小谷村:6月26日 松川村:2017年3月5日 長野県:2017年3月26日	ちひろ美術館・東京  安曇野ちひろ美術館
寄付	支援会員(寄付会員)制度等、寄付の取り組み	当財団、及び、ちひろ美術館(東京・安曇野)の理念を積極的に伝え、世界的にも散逸しやすい絵本原画の収集・保存・研究・展示公開、並びに、絵本の普及や国内外での絵本文化支援活動を支えていただく寄付を呼びかけ、支援会員制度他の寄附を受けた。	支援会員数310名 (新規57名・継続253名)	通年	両館
補助金	文化庁: 平成28年度地域の核となる美術館・歴史博物館支援事業  長野県:芸術文化活動推進事業・首都圏における長野県文化芸術発信事業	地域とともにある美術館同士と地域の子育て支援団体が協同し、それぞれのネットワークと各施設が持つ場所を最大限に活用しながら、地域の文化・芸術振興と、子育て支援のさらなる充実をめざし、「練馬におけるキッズフレンドリーミュージアム事業実行委員会」を組織して子育て世代向けのイベントを開催した本事業に対して、総額1,031,636円の補助金を受けた。  銀座NAGANOにおける安曇野アートライン推進協議会が主催して、加盟館による合同展示、ギャラリートーク、ワークショップ等の活動に対して、72,845円を受けた。			ちひろ美術館・東京、練馬区立美術館、特定非営利活動法人手をつなご
助成金	花王芸術・科学財団: 芸術文化助成金	革新性と独自性を持つ展覧会という評価を得て、50万円の助成を受けた。			銀座NAGANO  ちひろ美術館・東京

#### 収1

その他この法人の目的を達成するために必要な活動	ミュージアムショップの運営	来館者の展覧会鑑賞がより豊かなものとなり、美術館で過ごす時間が楽しいものとなるよう、魅力的なミュージアムショップを工夫し、その運営を行った。		通年	両館
-------------------------	---------------	--	--	----	----

## ■2016(平成28)年度事業報告 入館者一覧(案)

## 1. 絵本美術館の設置運営

2016年度の入館者数は、ちひろ美術館・東京 50,557名、安曇野ちひろ美術館136,192名、両館合計で186,749名となった。

## ■ちひろ美術館・東京

2016年4月～2017年3月 入館者数内訳(月別)

月	開館日数	有料入館者数		無料入館者数						全入館者数	1日平均入館者数
		大人	小計	中高生	小学生	幼児	支援会員	招待者その他無料	小計		
4	26	1,896	1,896	24	92	169	10	268	563	2,459	95
5	26	3,746	3,746	43	146	279	9	638	1,115	4,861	187
6	26	4,607	4,607	45	88	231	14	299	677	5,284	203
7	27	8,121	8,121	223	321	469	9	568	1,590	9,711	360
8	27	5,211	5,211	742	367	473	16	576	2,174	7,385	274
9	26	2,574	2,574	37	204	334	7	258	840	3,414	131
10	26	2,904	2,904	19	135	310	13	346	823	3,727	143
11	25	2,632	2,632	39	129	278	42	497	985	3,617	145
12	23	1,844	1,844	59	253	323	8	1,123	1,766	3,610	157
1	13	2,076	2,076	29	156	247	11	399	842	2,918	224
3	27	2,687	2,687	71	169	374	6	264	884	3,571	132
合計	272	38,298	38,298	1,331	2,060	3,487	145	5,236	12,259	50,557	186
構成比		75.8%	75.8%	2.6%	4.1%	6.9%	0.3%	10.4%	24.2%	100.0%	
昨年合計		35,207	35,207	1,444	2,237	3,803	128	4,947	12,559	47,766	167
前年度比		108.8%	108.8%	92.2%	91.7%	113.3%	105.8%	97.6%	105.8%	111.3%	

\* 2016年4月～2017年3月の入館者総数は50,557名(1日の平均入館者数186名)。2015年度に比べ2,791名の増加(前年度比111.3%)。また目標数56,000人に対しては5,443名少ない結果となった。

\* 入館者の内訳は有料入館者数38,298名(全体の75.8%)、無料入館者数12,259名(全体の24.2%)。

\* 入館者全体における割合は、大人(支援会員、その他無料含む):中高生:小学生:幼児が、86:3:4:7。

\* 例年通り、敬老の日(9月19日)は65歳以上の方の入館料を無料とした。

\* 12月11日に無料感謝デーを実施し、全入館者974名の入館料を無料とした(昨年は992名)。

\* 年間パスポートの販売数は245枚・612,500円(昨年は299枚747,500円)で昨年度比82%。

リピーターを含む延べ利用者数は999名(昨年は1,429名)で昨年度比70%だった。

\* 「ぐるっとバス」による入館者数は3,262名(昨年3,372名)で、昨年度比97%。

利用率自体は、「有料入館者」の11%(昨年は9.6%)、入館者全体の6%(昨年は7%)となった。

ぐるっとバス事務局によるインバウンド広報の効果もあり、外国人の利用者も増加している。

\* 外国人利用者は年間で約800名、昨年度比100%。入館数内訳としては、英語話者42%、

韓国15%、中国本土(中国語簡体字)23%、台湾・香港(中国語繁体字)20%で、タイ、シンガポール、など、

これまで多かった韓国・中国・台湾以外のアジア方面からの個人旅行客も増えている。

## ■安曇野ちひろ美術館

2016年4月～2017年3月 入館者数内訳(月別)

月	開館日数	有料入館者数		無料入館者数						全入館者数	1日平均入館者数		
		大人	小計	中高生	小学生	幼児	支援会員	その他無料	2015入館証				
4	28	6,244	6,244	110	244	308	6	394	221	159	1,442	7,686	275
5	27	11,651	11,651	378	464	632	5	1,374	323	250	3,426	15,077	558
6	28	7,491	7,491	98	69	234	3	809	146	186	1,545	9,036	323
7	28	12,879	12,879	492	752	815	11	1,094	421	266	3,851	16,730	598
8	31	25,646	25,646	1,509	2,772	2,044	5	1,665	887	446	9,328	34,974	1,128
9	27	12,387	12,387	266	493	633	5	890	356	185	2,828	15,215	564
10	29	16,311	16,311	137	549	559	13	852	610	237	2,957	19,268	664
11	28	9,245	9,245	89	288	564	7	652	598	195	2,393	11,638	416
12	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
3	30	4,490	4,490	172	372	406	9	792	0	327	2,078	6,568	219
合計	256	106,344	106,344	3,251	6,003	6,195	64	8,522	3,562	2,251	29,848	136,192	532
構成比		78.1%	78.1%	2.4%	4.4%	4.5%	0.0%	6.3%	2.6%	1.7%	21.9%	100.0%	
昨年合計		109,039	109,039	3,819	5,094	5,472	45	8,495	0	2,009	24,934	133,973	525
前年度比		97.5%	97.5%	85.1%	117.8%	113.2%	142.2%	100.3%	#DIV/0!	112.0%	119.7%	101.7%	101.3%

\* 2016年4月～2017年3月の入館者総数は136,192名(1日の平均入館者数532名)。2015年度に比べ2,219名の増加。(昨年度比101.7%)

また目標数190,000人に対しては53,808人少ない結果となった。(目標比71.7%)

\* 入館者の内訳は、有料入館者数106,344名(全体の78.1%)、無料入館者数29,848名(全体の21.9%)。

2015年団体入館証提示による入館料無料(2016年度限定の企画)や7/23(土)のトットちゃん広場オープン後の小学生、幼児の来館者増加により無料入館者の割合が21.9%となり、昨年より3.3ポイント増加した。(昨年は18.6%)

\* 入館者全体における割合は、大人(支援会員、その他無料、2015年入館証、松川村含む):中高生:小学生:幼児が、89:2:4:5。(昨年は89:3:4:4)

尚、トットちゃん広場がオーブン後7月～3月の割合は、大人:中高生:小学生:幼児が、87:3:5:5と小学生の割合が増えている。(昨年は89:3:4:4)

尚、トットちゃん広場オープン前の4月～6月の割合は、大人:中高生:小学生:幼児が、92:2:2:4。(昨年は92:2:3:3)

\* 例年通り、敬老の日(9月19日)は65歳以上の方の入館料を無料とした。

\* 2016年度は、白馬から松本までの各市町村ごとの入館無料デーと長野県民無料デーを実施し、計776名が来館した。(昨年は867名)

内訳:4月10日 池田町・生坂村(85名)、5月8日 安曇野市(143名)、5月22日 大町市(70名)、6月12日 松本市(94名)、6月26日 白馬・小谷村(17名)、3月5日 松川村(39名) 3月26日 長野県民入館無料デー(328名)。

\* 有料入館者数のうち、旅行会社等のクーポン利用者数は10,244名。有料入館者全体に対してのクーポン利用率は9.6%(昨年は10.8%)。

\* 有料入館者数のうち、パートナー前売券利用者数は1408名。有料入館者全体に対してのパートナー前売券利用率は1.3%。

\* 団体入館者数は、24,206人。(昨年は24,389人。昨年度比99%) 入館者全体に対する割合は17.7%。(昨年は18.2%)

団体入館者のうち、台湾や韓国など海外(インバウンド)からの来館者は1,013名と昨年より132名増加した。(昨年は881名)

\* 入館者136,192人のうち、団体入館者数を除く、一般入館者数は、111,986人(昨年は109,584人。昨年度比102%)

公益財団法人いわさきちひろ記念事業団

■2016(平成28)年度事業報告書の附属明細書

当財団の事業報告書については、附属明細書に該当する事項がないため、附属明細書を省略する。